

4月21日 ヨハネによる福音書 21章 15～19節

説教題：「わたしを愛しているか」

今日の個所は復活したイエス様と食卓を囲んでいるときの出来事です。かつてイエス様を知らないと言ってしまったペテロに対して、イエス様が「愛する」ことを語りかけています。

最初の部分では、ペテロに対して全く同じやり取りが3度繰り返されます。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」このように同じ言葉を三度繰り返しているのは、強調の意味が込められた技法だそうです。そうであれば、ペテロがヨハネ福音書の13章で、イエス様に予告され、イエス様が逮捕されたのちにイエス様のことを三度知らないと言ってしまった三度の否みも「イエス様のことを強く否定した」こととなります。だからこそ、そのことを負い目に感じていたのでしょう、ペテロは「それはあなたのご存じです」とはぐらかすように答え、まっすぐな言葉でイエス様に対して「私はあなたを愛しています」と返すことができませんでした。

イエス様が求めている愛とは、無償の愛である「アガペー」という愛です。自分のことを勘定に入れることなく、ただ愛する相手の事だけを考える愛です。その愛を求めるイエス様に対して愛で応えることのできないペテロの心の中は、イエス様のことを「知らない」と言ってしまったことに対する心の底からの後悔、悔い改めであふれていました。その反省と悔い改めた心をイエス様は理解したのでしょうか。イエス様はペテロのことを信頼して、あとの弟子たちのことを託します。三度ペテロに託された「わたしの羊を飼いなさい」という言葉は、イエス様からペテロに対する強い信頼の表れでした。

これらの言葉は、ペテロが受けるこの先の運命を知っていたイエス様が、ペテロを力づけるために語った言葉でした。その人生の最後の時までイエス様のことを語り、神様の栄光を表し続け、殉教という結末をたどることを知っていたからこそ、イエス様はペテロに「私の羊を飼いなさい」「わたしに従いなさい」という言葉をかけます。その言葉によってペテロの人生のすべてが神様に守られたものとなるように愛を注いだのです。

ペテロを始めとして弟子たちの多くは、殉教という最期を迎えました。自分ではなくイエス様を愛したからこそ、彼らは自分の命を惜しまなかったのです。私たちがまた、同じようにイエス様のことを他の何よりも愛することが求められています。

誰かを愛するということは、その人を最優先に考えるということです。「他の誰よりも、自分よりもイエス様のことを愛する」という覚悟をもって、どんな時も御言葉に判断をゆだねる、今私たちに求められているのはその覚悟を行うことなのだと思います。

皆さまは、あなたはイエス様を愛していますか。私は、ちゃんとイエス様を愛することができているのでしょうか。いつも、いつもでもそのように自問自答をしながら、日々の生活を歩みたいと思います。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 21 章 15～19 節

- ・15:食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたをご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。はっきり言うておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。